

## (2) 無障害物帯

N-4.1の無障害物帯の生育・形成状況を表7-30、図7-7に示した。

無障害物帯縁の植生の推移をみると、無障害物帯は樹木の伐採が行われた後、埋土種子からの発芽による実生株や周辺からの草本類の侵入により、植被率の増加がみられ、植生の回復が進んでいることを確認した。

評価図書においては、無障害物帯は早期緑化を行うこととしており、その環境保全措置を実施できたと考えられる。

なお、各地点の植生状況の概要は、以下に示した。

### (各調査地点の概況)

北側では、昨年度の最後の調査(平成25年1月)では、草丈が0.5m、植被率が30%、出現種27種であった。平成25年4月から平成26年1月までの変化は、草丈が1.0mから1.2m、植被率が60%から90%、出現種は23種から24種へと変化した。平成26年1月の段階では、草本類のススキ、コゴメスゲ、ハイシロノセンダングサが優占していた。

南東側では、昨年度の最後の調査(平成25年1月)では、草丈が0.5m、植被率が40%、出現種21種であった。平成25年4月から平成26年1月までの変化は、草丈が0.8mから1.0m、植被率が50%から90%、出現種は22種から18種へと変化した。平成26年1月の段階では、草本類のススキが優占していた。

南側では、昨年度の最後の調査(平成25年1月)では、草丈が0.8m、植被率が50%、出現種22種であった。平成25年4月から平成26年1月までの変化は、草丈が0.1mから1.3m、植被率が70%から100%、出現種は24種から19種へと変化した。平成26年1月の段階では、草本類のススキとコゴメスゲが優占していた。

西側では、昨年度の最後の調査(平成25年1月)では、工事のためブルーシートに覆われており、平成25年4月時点では植生は存在していなかった。その後、緑化が行われ、平成26年1月の段階では、草丈が0.2m、植被率が100%、出現種は9種となっており、草本類のシバが優占していた。





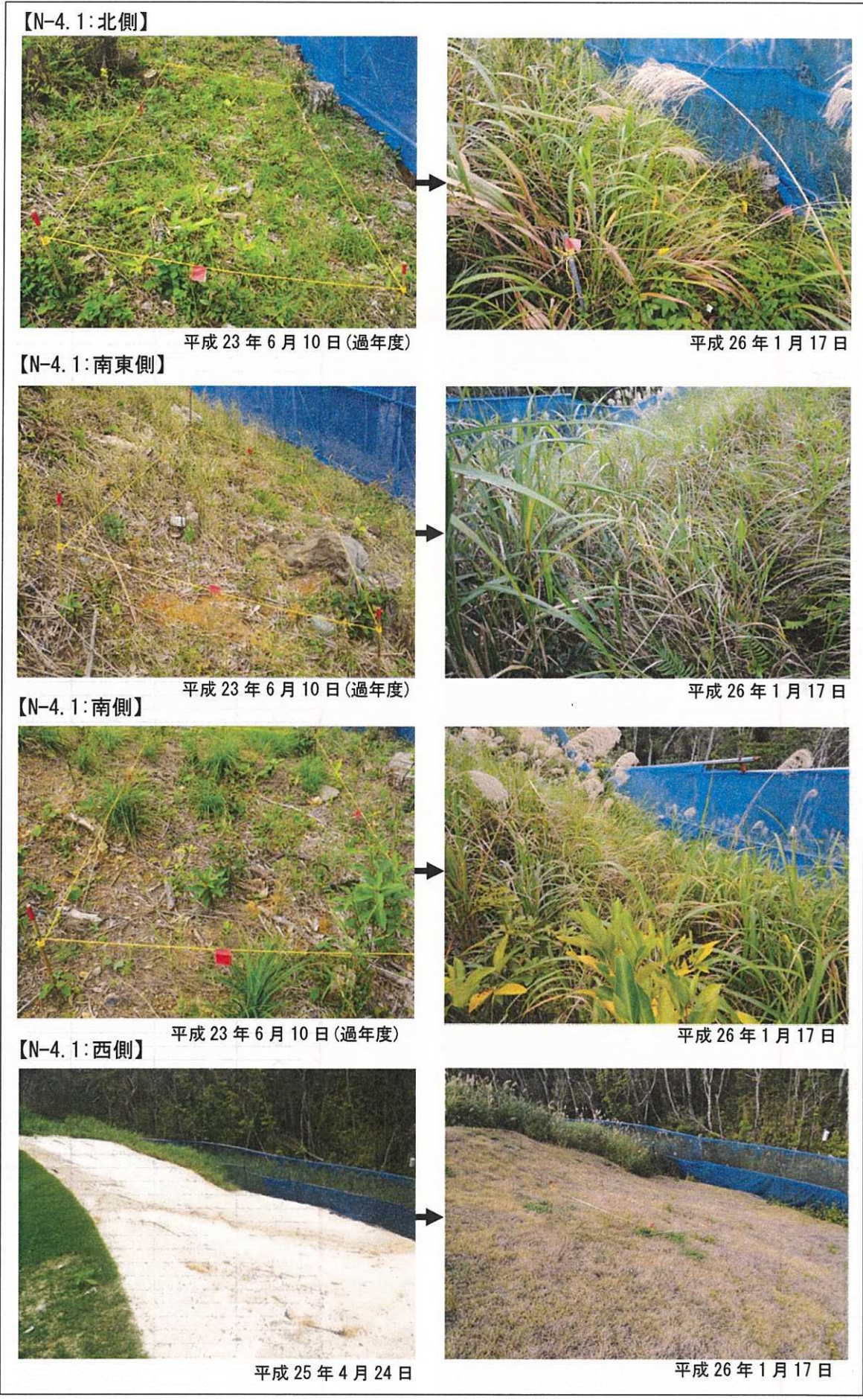


図 7-7 無障害物の生育状況 (N-4. 1)

### 7.2.3 動物

#### 1) 周辺林内の乾燥化による貴重な動物種の生息状況

N-4 地区における貴重な動物種の生息状況を表 7-31 に示した。

その結果、出現種は評価図書で 55 種、平成 25 年度で 71 種が確認され、評価図書で予測したとおり、種の存続を脅かしている状況は確認されなかった。

表 7-31 貴重な動物種の生息状況 (N-4 地区)

No.	分類群	目名	科名	種又は亜種名	過年度調査		平成25年度	
					図書調査	N-4.1移動種	N-4.2移動種	N-4地区
1	哺乳類							○
2								○
3						○		○
4						○		
5	鳥類							○
6						○		○
7								○
8						○		○
9						○		○
10						○		○
11						○		○
12						○		○
13						○		○
14						○		○
15						○		○
16						○		○
17						○		○
18						○		○
19					○		○	
20	爬虫類							○
21							○	○
22								○
23						○		○
24						○		○
25								○
26						○		○
27						○		○
28	両生類							○
29								○
30								○
31							○	○
32								○
33								○
34						○		○
35								○
36	甲殻類							○
37	昆虫類							○
38								○
39								○
40								○
41								○
42								○
43								○
44								○
45							○	○
46						○		○
47							○	○
48						○		○
49								○
50							○	
51							○	
52							○	
53							○	
54							○	
55							○	
56							○	
57							○	
58							○	
59							○	
60							○	
61							○	
62							○	
63							○	
64							○	
65							○	
66							○	
67	クモ類					○	○	○
68							○	○
69	マキガイ					○		○
70								○
71						○		○
72							○	○
73						○		○
74								○
75								○
76							○	○
77						○		○
78							○	○
79						○		○
80							○	○
81							○	○
計	8群	28目	57科	81種	55種	13種	8種	71種

## 7.2.4 生態系

### 1) ノグチゲラの人工採餌木の利用状況

平成23年2月に設置した人工採餌木(No. 1~3)の利用状況を表 7-32 に示した。N-4 地区においては、平成23年2月に設置したNo. 1~3 の [ ] [ ]、平成25年度冬季現在で、 [ ] [ ]。なお、人工採餌木においては、朽ち木内を住处とする [ ] [ ] が、No. 1~3 の [ ] など、ノグチゲラ以外の貴重な動物の利用 [ ]。

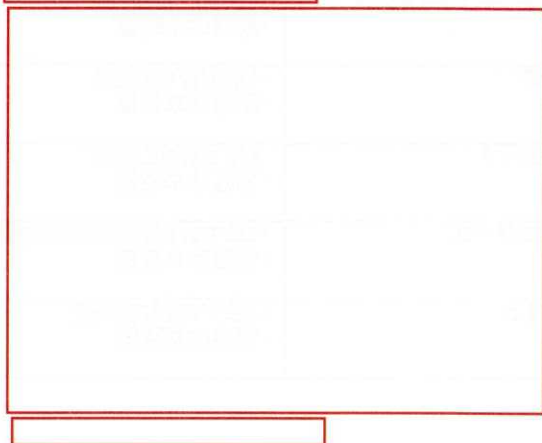
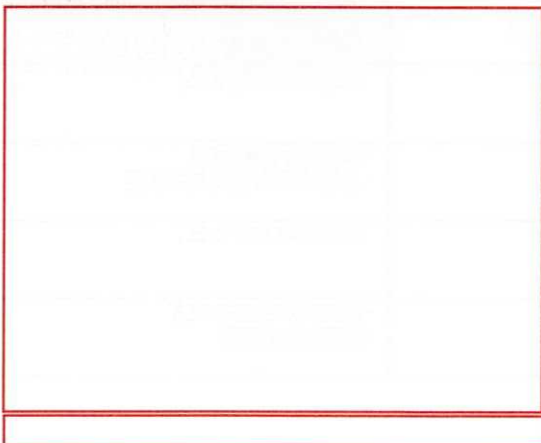
以上のことから、環境保全措置として実施したノグチゲラの人工採餌木については、一定の効果があつたと考えられる。

表 7-32 人工採餌木におけるノグチゲラの累積採餌跡数

地区 (設置年月)	人工採餌木 番号	平成25年度				備考
		春季	夏季	秋季	冬季	
N-4 (平成23年2月)	No. 1					<ul style="list-style-type: none"> <li>腐食が進む。</li> <li>[ ] の排出カス2箇所確認。</li> <li>ヤンバルヤマナメクジや [ ] 等を確認。</li> </ul>
	No. 2					<ul style="list-style-type: none"> <li>木は堅い。</li> <li>[ ] の排出カス5箇所確認。</li> <li>ツヤギセル等を確認。</li> </ul>
	No. 3					<ul style="list-style-type: none"> <li>木は堅い。</li> <li>[ ] の排出カス2箇所確認。</li> <li>ツヤギセルや [ ] 等を確認。</li> </ul>



人工採餌木の状況(No. 3)



## 2) 生態系注目種の生息・繁殖状況

N-4 地区における生態系注目種の生息・繁殖状況を表 7-33 に示した。調査の結果、N-4 地区では評価図書手続き時と比較して、現段階で [ ]、評価図書において生態系への影響は小さいとした予測結果と同様であった。

表 7-33 生態系注目種の生息・繁殖状況 (N-4 地区)

調査項目	評価図書手続き時の調査	平成25年度
ノグチゲラ	・4季で計18回確認 ・巣または巣跡:1ヶ所 (巣は、N-4 [ ] で確認)	
ヤンバルクイナ	・4季で計4回確認 ・繁殖は未確認	
ホントウアカヒゲ	・4季で計45回確認 ・巣または巣跡:2ヶ所	
リュウキュウヤマガメ	・4季で計8回確認	
ヤンバルテナゴコガネ	確認されなかった。	
オキナワイシカワガエル	・秋季～冬季、春季～夏季調査で計1回確認 ・繁殖は未確認	
ハナサキガエル	・秋季～冬季、春季～夏季調査で計22回確認 ・繁殖は未確認	
ホルストガエル	・秋季～冬季、春季～夏季調査で計3回確認 ・繁殖場:12ヶ所	
ナミエガエル	・秋季～冬季、春季～夏季調査で計3回確認 ・繁殖は未確認	
オキナワミナミヤンマ	確認されなかった。	
アオバラヨシノポリ	・大泊川、サンヌマタ川、新川川流域で確認	
キバラヨシノポリ	確認されなかった。	
ヤンバルホオヒゲコウモリ、リュウキュウテングコウモリ	確認されなかった。(ただし、種不明だが、小型コウモリ類の飛翔を2ヶ所確認。)	
オキナワトゲネズミ	確認されなかった。	
リュウキュウイノシシ	・4季で計4回確認 ・繁殖は未確認	・4季で成獣1回、鳴き声3回、足跡14回、糞8回、掘り返し203回確認 ・繁殖は未確認
ハブ	・4季で計1回確認 ・繁殖は未確認	確認されなかった。
ヒメハブ	・4季で計3回確認 ・繁殖は未確認	・4季で計48回確認 ・上記のうち幼体3回確認
マングース	・4季で計2回確認(1個体捕獲) ・繁殖は未確認	確認されなかった。
ノネコ	・4季で1個体を捕獲 ・繁殖は未確認	・2個体の生息を確認 ・繁殖は未確認

## 7.2.5 景観

### 1) 囲繞景観

N-4.1 完成後の平成 25 年度では、N-4.1 周辺では部分的にはリュウキュウマツ景観区が裸地・路傍雑草景観区になっているものの、改変面積が小さいことから、N-4 地区の眺めの状況に大きな変化はないものと考えられる(図 7-8～図 7-9)。なお、平成 25 年度の秋季調査以降において、N-4.2 の土工事が実施されており、平成 26 年度以降に工事前後の景観の変化について比較を行う予定である。



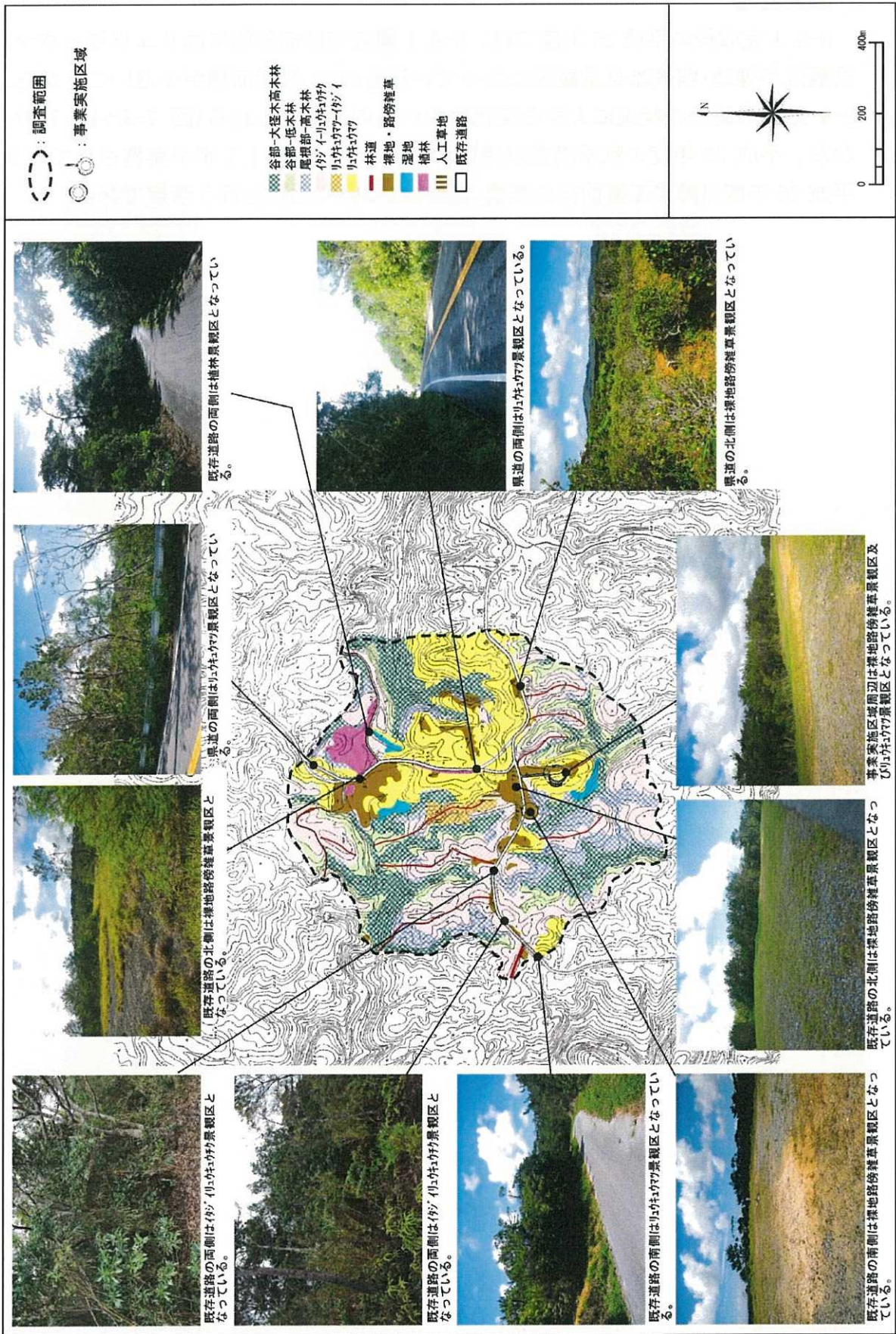


図 7-8 N-4 地区における眺めの状況 (平成 23 年度)

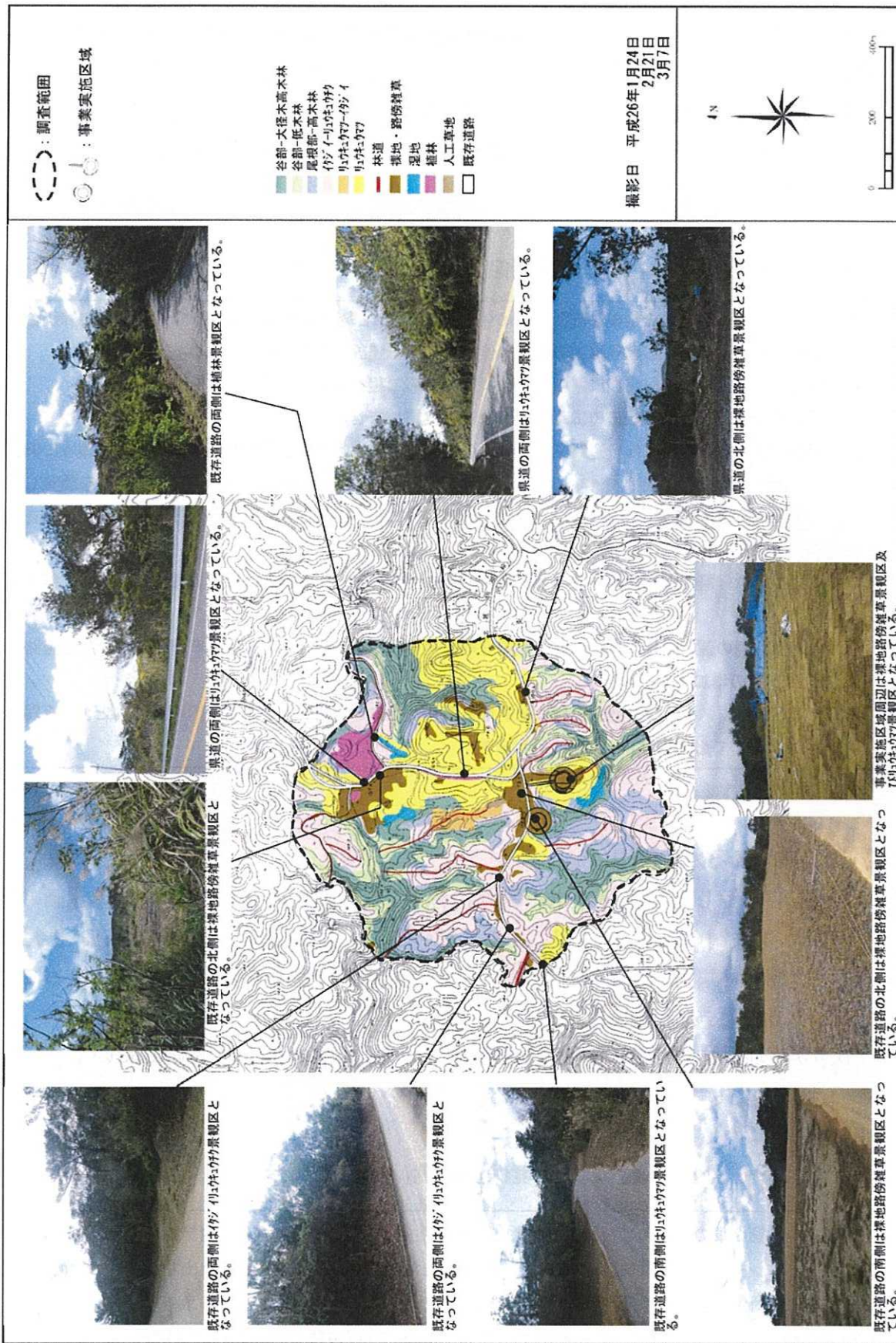


図 7-9 N-4 地区における眺めの状況（平成 25 年度）